



# 第1回放課後子ども教室研修会

**目的：**放課後子ども教室推進事業の先進的な実施状況を見学したり、成果や現状について協議したりするなど、実践を学ぶための研修会を行い、事業に携わるコーディネーターやボランティア人材の資質の向上を図る。

**実施日：**平成29年8月3日（木） **場所：**吾妻学習センター **参加者：**47名

## 講話 「放課後子どもプランにおける地域の現状と課題」

こだいら子ども教室コーディネーター 下村 咲子 氏

### 1 始める時を振り返ってみると

平成16年、子どもたちの居場所作りに始まった「地域子ども教室」が、現在の「放課後子ども教室」として継続している。現在は、小平市内の19校全ての小学校に子ども教室があり、各校にコーディネーターがいる。



### 2 こだいら放課後子ども教室の事例紹介

様々な活動が、たくさんの人の支えによって運営されている。夏休みの調理実習には、高校生の家庭科部が参加してくれるなど、たくさんの教室があり、多くの子どもたちが活動している。たとえ参加者が一人でもその子のためになればと、実施するようにしている。

教室の紹介（抜粋して紹介）

- ① にじいろひろば（地域の高齢者による昔遊びや伝統行事体験）
- ② sing a song（音楽の専門家による教室 市の音楽祭、地域の演芸会、老人施設の訪問発表）
- ③ ミニバスケット（コーチには大学生ボランティアも参加 市民大会で優勝）
- ④ 小さなおはなし会（月1回 季節や行事に合わせた読み聞かせ）
- ⑤ 四小よさこい（イベント前に不定期で練習 各種イベントでの発表）
- ⑥ 四小おやじの会（保護者のお父さんたちで企画運営 毎年新しい企画を行う）
- ⑦ 夏休みスペシャル（栽培観察 夏休み宿題補習 調理実習 ピンホールカメラなど）

### 3 コーディネーターは何をやるのか

各市町村の方針や学校の経営ビジョンをしっかりと把握しておくことが大切である。担当している学校の子どもたちにどのような力をつけさせたいのか、何を目指して活動するのかという信念をしっかりと持つことも大切なことである。その信念があるからこそ、何か課題にぶつかったときにぐらつかない運営につながる。そのために、事前の実行委員会を大切な時間に行っている。



### 4 現状と課題をふまえて

家庭生活で「いってらっしゃい」がない。学校で誰とも話をしない。家に帰っても会話がな。そんな子にこそ、放課後子ども教室に来てほしい。未来を担う子どもたちの小学校時代を一緒に過ごせる幸せをかみしめ、今後も心の根っこをふくらませながら関わっていきたい。



# 演習 「子どもたちと共に楽しむ遊び」～屋内での手軽な遊び～

福島県レクリエーション協会 鈴木 道代 氏

## 1 おもしろくて頼りになる大人になろう

- ① 様々な活動の実践時には、事前に自分で研究することが大切である。子どもたちがうまくできない時にアドバイスや手直しができるように。
- ② ゲームのルールや工作の工夫など、子どもに考えさせる場面を与える。大人が先に指示ばかりせず、いろいろ考えさせることも大切である。
- ③ 子どもの「できた」を褒められるようにする。他の子どもと比べず、どんなに小さくてもその子一人の良さや成長をみることが大切である。
- ④ 子どもと一緒に楽しむ。楽しい気持ちは、子どもにも伝わる。一緒になって楽しんでいるのか子どもにはわかるもの。でも、楽しさの押しつけには注意が必要。



## 2 演習の例

参加者が実際に作品を作り、体験をした。みんな楽しめて、すぐに実践できる演習を行った。

- ① 広告紙でキラキラ輪投げ（広告紙、セロハンテープ）
  - ・輪投げ、キャッチボール、色分けビンゴゲーム、腕輪、輪つなぎ飾り
- ② 新聞紙でフリスビー（新聞紙、セロハンテープ）
  - ・新聞紙で簡単に作るフリスビー（とっても簡単に作れて飛びます）
- ③ 牛乳パックでホイッスル（用紙、ビニールテープもしくはマスキングテープ、消毒）
  - ・手作りホイッスルでリズム遊び、歌当て遊び、仕組みを知ろう
- ④ よく飛ぶ簡単折り紙凧（折り紙、セロハンテープ、たこ糸、紙テープ）
  - ・折り紙で簡単に作れます。あまりスピードを出さなくてもよく飛びます。
- ⑤ プラカップとゴルフボールで遊ぼう（プラカップ、ゴルフボール、ビニールテープ、養生テープもしくはガムテープ）
  - ・チキンレース、カップで玉入れ



## 情報交換（スタッフ、コーディネーター、行政関係者に分かれて）

子どもの放課後支援に関わっている参加者が、スタッフ、コーディネーター、行政関係者に分かれて情報交換を行った。各放課後子ども教室での実践例や課題などを話し合った。課題やこれからの取組などを共有できる時間となった。また、横のつながりを持つことができ、連携するきっかけともなった。



## 【参加者からの声】

- ・子どもと共に遊ぶときの楽しみ方を学ぶことができ、有意義な研修でした。参加者が少なく、悩むこともありましたが、参加人数を気にするのではなく、一人でも居場所をつくることを優先に考えていくことに気づかされました。大変良かったです。
- ・講話では、放課後子ども教室の目的を明確化することが重要だということを知ることができました。演習では、カップ玉入れに興味を持ちました。実際にやってみたいと思います。また、1つのことから遊びを広げる楽しさも学ぶことができました。